

# 新春特別対談 濱瀬元彦×菊地成孔

日本を代表する音楽家であると同時に、音楽理論にも造詣が深く多くの著作を持つ2人。日本の音楽界を代表する2人の知性によるスペシャル対談

菊地成孔（以下、菊地） 濱瀬先生

生が、ブラジル音楽に、一見やってらつしやることの振り幅も大きいじゃないですか。意外な人が、意外な音楽に詳しいことはありますけど、濱瀬先生がブラジル音楽やばくなつたのは、何がきっかけだったんですか？

濱瀬元彦（以下、濱瀬） やっぱりジョアン・ジルベルトですよ。

菊地 ということは、一般的な日本のボサノヴァ・ブルムと一緒にですか？ 64年の『ゲット／ジルベルト』とか、ちょうどオレが生まれた頃で……。

去年（2014年）『ゲット／ジルベルト』が50周年で。

濱瀬 そうですね。「イバネマの娘」が、ヒットチャートでヒットしたときに、はじめて聴いたんですけどね。

菊地 ビートルズと実は同時期な

濱瀬 もう当時、僕は中学生だったからね。ラジオにかじりついて。アメリカのビルボードのチャートをAMのラジオでやっていたのね。ヒットチャートに出てくるものを鬼に角聴いていて。その中に「イバネマの娘」がポンとあつた。これは何と素敵なお楽なんだろ

うと思いました。

菊地 『ゲット／ジルベルト』の「イバネマの娘」？

濱瀬 ジョアン・ジルベルトの歌声をカットしたバージョンですよね。だけど、当時「カマトト唱法」って言われていたけどああいうのがステキだなあと思つて。だけど、ビート

ルズが好きだけど、こういうのはちょっとボピュラー過ぎるんじゃないとかさ。で、結局切れて、ジャズを聴くようになつて、ちゃんと『ゲット／ジルベルト』を聴いたのは大

学に入つてからだよ。あまりにも素晴らしいんだけど、当時、僕がやつていたのは、本格派のジャズっていうか、マイ尔斯だったからね。いいんだけど、「こんなにいつて思つちゃつていんだろうか」つてね。あの当時ね、忘れもしないけど、ジョアン・ジルベルトの「三月の水」が入つた『ジョアン・ジルベルト』つて、モノクロのレコードを友人が持つていて、それを聴いて、本当にいいと思つたんだよね。

「これをこんなにいいと思つちやつていいのか」つて、自分で禁止をかけるような感じで。その後、もうちょっと経つてから『アモローザ』つてアルバムを新宿のジャズのレコード店で買つたり。

ジャズの後で、自分の音楽をやつていたんで、他人の音楽を聴けない状態になつて、そこで一度途切れ。当時、すごく狭いところに入つていくような感じで。んで、年にCDを買って3枚とかね。それでも3枚くらいは買うんだけど。そういうのが何年も続いているような状態が、自分のアルバムを初めて出した後で、急に色んなのが聴きたくなつて。ある種の表現がある種の社会的規模つていうか、ある条件の閉じたところで、表現やるつてのは、結構大きな問題でさ。自分の素手で表現しているつていうか……抑制していたものが聴きたくなつて、結局90年代になって、50年代のアメリカのアルバムをものすごく聴いた。ボピュラー音楽、クラシック・ポップスつて言われるよ。ナショナルとか、ものすごく聴いたんですよ。毎日のように、渋谷とか下北沢に行って、アナログのLPを集めたりね。でそういう下地の状態で、ジョアン・ジルベルトを再び聴いた。そしたらも

かないと不安になつちゃうっていうか。聴いているといいんだけど、聴いてない状態がないよな状態になつて。そりや、なるだらうなつて。ジョアンが好きになつて、ジョアンのようないいのかと思って探して、なかなかかつたんだけど、段々色々なものを聴いていたら、ジョアン以外のものも聴くようになつて、段々を知識を深めていつて、今日になつて感じですかね。

## ●ジョアン・ジルベルトについて

菊地 ジョアン・ジルベルトって、例えば、ジャズにおけるマイルスとか、ロックにおけるレッド・ツェッペリンとか、一見ワンアンドオンリーで、ジャンルを背負つているよう

で。その後、もうちょっと経つてから『アモローザ』つてアルバムを新宿のジャズのレコード店で買つたり。

ジャズの後で、自分の音楽をやつていたん

で、他人の音楽を聴けない状態になつて、そこで一度途切れ。当時、すごく狭いところに入つていくような感じで。んで、年にCDを買って3枚とかね。それでも3枚くらいは買うんだけど。そういうのが何年も続いているような状態が、自分のアルバムを初めて出した後で、急に色んなのが聴きたくなつて。ある種の表現がある種の社会的規模つていうか、ある条件の閉じたところで、表現やるつてのは、結構大きな問題でさ。自分の素手で表現しているつていうか……抑制していたものが聴きたくなつて、結局90年代になって、50年代のアメリカのアルバムをものすごく聴いた。ボピュラー音楽、クラシック・ポップスつて言われるよ。ナショナルとか、ものすごく聴いたんですよ。毎日のように、渋谷とか下北沢に行って、アナログのLPを集めたりね。でそういう下地の状態で、ジョアン・ジルベルトを再び聴いた。そしたらも

かないと不安になつちゃうっていうか。聴いているといいんだけど、聴いてない状態がないよな状態になつて。そりや、なるだらうなつて。ジョアンが好きになつて、ジョアンのようないいのかと思って探して、なかなか

菊地 日本はボサノヴァ消費国家で、世界で一番ボサノヴァが好きくらいだと思うんですけど。だから、ボサノヴァに関するミクス

トとともにいっぱいあるわけじゃないですか。ソフトに気が狂つて、今だらありますけど、当時多分無かつたと思

うんですよね。

濱瀬 増えますよね。ボサノヴァにまつわるエピソードも沢山聞きますけど、ジョアン・ジルベルトって、僕の考えでは、ギリギリ、アウトサイダー・アートっていうか……。

菊地 ちょっとおかしいですね。じゃないとああならない。

濱瀬 普通じゃない。

濱瀬 実際、親に精神病院に入れられたことがあるつて話もあるよね。

菊地 そうですよね。伝説とか、簡単な史実を繋ぎ合わせても、やっぱり一種のアウトサイダーだと思うんですよ。アウトサイ

ダーラー・アートつていうと、(ヘンリー)・ダーラーみたいに発表されないものまで含めちゃうから、ちゃんとメジャーから出てるから

アウトサイダーじゃないだろう、インサイダーだろう」と言えばそれっきりなんですね。

菊地 ジョアン・ジルベルト原理主義を批判する人も、今や出て来ているんですね。

濱瀬 ジョアン・ジルベルトが、どうしてやがて若くして死んだとか、そういう

見るだに気が狂つていろいろロック的な狂い方ぢやなくて、誰も当時おそらく、ジョ

アン・ジルベルトが気が狂つてているようには聞こえなかつたわけぢやないです。要する

に「ソフト狂氣」つていうか。狂氣つていうのは、当時の荒漠としたイメージだと、え

げつなくて強いもの、荒々しいものっていう

か。ソフトに気が狂つて、今だらありますけど、当時多分無かつたと思

うんですよね。

濱瀬 僕はあまりアウトサイダー・アート



撮影・須金信一郎

写真左：濱類がリーダーのユニット「濱類元彦 Ensemble+ 菊地成孔」。写真右：濱類元彦（左）と菊地成孔（右）



umble+菊地成孔】。写真右：濱瀬元彦（左）と菊地成孔（右）。



とは思っていないんだけど。かなりオーソドックスなものは踏まえているし。自分がやっている表現に対しての、それを自分が欲求しているものと、そういうもののについての、その突き詰め方っていうのが、尋常じやなくて。「表現」だから、そこまで行きなきや仕方がないと思うんだけど、そこまでやつた人はあんまりいないと思うのね。作曲だとか、パフォーマンスだけとかじやなくて、彼の場合、ギターの演奏も、歌も、曲は少しが書いてないけれど、自分が現実化する音楽の形つてのをわかっていて、自分

ジョアン・ジルベルトはちょっと……つて人は聞いたことがないし、あんなに魅力があったら、さつき濱瀬先生がおっしゃったように好きになっちゃうって階段で抵抗出る。こんなに好きになつていいだろうかつて。こんなにいいと思っちゃつていいのかなあつてねえ。

## ●現在のブラジル・米国の音楽シーン

曲は少しありがてら書いてないけれど、自分が現実化する音楽の形つてのをわかつていて、自分の欲望と演奏する音楽の間にズレつてのがあることを許さない。それでいて、聴くところとしては聴き易いし、快感のある音楽リズムもメロディーも声も柔らかいしね。だけど、そこにある欲望の強度つてのは、ホントに半端ない。その在り方に、なんともいたく感動したつていうか。こういう在り方つてのが、1つあるのかなあつて。音楽の在り方としてね。非常に大きく影響を受けたつて言いますか。

菊地 ブラジル音楽が独立してなくて、ラテン音楽とか大まかになつてる時間が相当長かつたんですね。アフリカ大陸と中南米と一緒にしているという牧歌的な人はもういないと思うんですけど。ブラジル音楽がブラジルの音楽として独立しているんだというイメージが日本人のレコード好き／音楽好きがもつたり、うになつたのがそんなに昔ではない。あつて 20年くらい。

濱瀬 20年経つてない。

菊地 単にボサノヴァという括りにしちゃうとジヨアン・ジルベルト以上はないと思つちゃうじゃないですか。後は徒労じゃないで

菊地 今シーン的には「ジャズ・サ・ニュー・チャプター」といつて口バート・グラスパーだけではなく、インド系のヴィヴィジェイ・アイアードとかを含めて、ジャズが10年代

**濱瀬** 僕全然ためですね。グラスパーは何枚か持つますがいいと思えませんね。はつきり言つてここまで落ちてしまつたかという感じです。

呼はれたりする人たちがやっていることは本当に素晴らしいよね。  
**菊地** 08～09年くらいから、ジャズは、濱瀬さんお聴きになるかわからないんですけど、ロバート・グラスパーとか……。

**菊地** おそらく原理主義を批判するという意味で、ジョアン・ジルベルトは「Ion」だつて言つてゐる人々も、好きは好きだと思うんですね。絶対に抗えないといふか、後から色々と書誌学的なことがわかつてきて、後状況を鑑みた上で、あんまり原理主義になるのもいけないんじゃないかなといふ一つのバランスの考え方であつて、本当に心からダメとは感じていらない、思つていらないはず。

**濱瀬** その在り方に違和を唱えているつていう。そういう人が多いことに対してね。

**菊地** 本当にそんな人珍しいですね。ハーロックも好きだけど、リツチー・ブラツチモアつてそもそもないんだよね、あるじやないですか。ジャズ好きだけど、パークーはそうでもないといつて人さえいると思うんですけど、探せば。だけど、ボサノヴァ好きだけど、

濱瀬 その期間が長くてね。00年を越えてからくらいかな。サンバウロの音楽に、面白くない人たちがいるなあと思い始めて、ジョアン・ジルベルトだけではないなと。それから、もちろんジョアン・ジルベルトも素晴らしいんだけど、あれだけをいっていつてたらダメだよと積極的に思うようになった。それで、大違ひだよと、美的な追求として、ブラジル音楽は世界で最も高度なことやつてるんじゃないかな。  
菊地 そう思いますね。

になつて、一気に活性化したような状況になつて。それまでニューヨーク、21世紀になつてからのニューヨークつて、如何とかいうのもあるのかもしれないですが、ニューヨークは本場で、毎日セッションして、そこにはヤバいミュージシャンがいるから、ジャズを知るためににはニューヨークいかないとダメだぜ」といった雰囲気はちょっととなくなつた。例えば、ウイントン・マルサリス、ブランドン・メルドーとか一人一人はすごいんですけど。サックスだとジョシュア・レッドマンとか。ちょっとと前の90年代後半から00年代前半にやつてた人がスキルも才能もあるんだけど力

ジョアン・ジルベルトはちょっと…って人は聞いたことがないし、あんなに魅力があったら、さつき濱瀬先生がおしゃしゃつたように、好きにならうって段階で抵抗出るし。こんなに好きにならうっていいだろかつて。

菊地 こんなにいいと思っちゃつていいのかなあってねえ。

菊地 そんな気になることって滅多にないですよね。粗がないっていうか。完全なものですよね。

菊地 ●現在のブラジル・米国の音楽シーン

菊地 ブラジル音楽が独立してなくて、ラテンとか大まかになってる時間が相当長かったですよね。アフリカ大陸と中南米を一緒にしているという牧歌的な人はもういないと思うんですけど。ブラジル音楽がブラジルの音楽として独立しているんだというイメージが、日本人のレコード好き／音楽好きがもつようになつたのがそんなに昔ではない。あつて20年くらい。

濱瀬 20年経つてない。

菊地 単にボサノヴァという括りにしちゃうとジョアン・ジルベルト以上はないと思つちゃうじゃないですか。後は徒労しやないですけど……。

濱瀬 その期間が長くてね。00年を越えてからくらいかな。サンパウロの音楽に、面白い人たちがいるなあと思い始めて、ジョアン・ジルベルトだけではないなと。それから、もちろんジョアン・ジルベルトも素晴らしいんだけど。あれだけをいひつてたらダメだよ。大違いだよと積極的に思うようになった。美的な追求として、ブラジル音楽は世界で最も高度なことやつるんじやないかな。

菊地 そう思いますね。

菊地 ミナスもそう。伝統的に面白いけど、新しい世代も面白い。新ミナス派、新・新

世代ミニナス派と呼ばれている人たち。アントニオ・ロウレイロとか。クリストフ・シルヴァが中心だけどね。音楽の一番大事な部分といふものが欠損していくなくて、むしろ大衆化することで高度化している。すごいことやっているなと思います。自分はああできないけれど。違うやり方でしか。高度なことをあとはサンパウロの純音楽の人たち。サンパウロアヴァンギヤルドの後継者とそれとそうでない人たち。前衛派じゃない、高踏派と呼ばれたりする人たちがやつてすることは本当に素晴らしいよね。

菊地 08～09年くらいから、ジャズは、濱瀬さんお聴きになるかわからないんですけど、ロバート・グラスパーとか……。

菊地 濱瀬 僕全然ダメですね。グラスパーは何枚か持つてますがいいと思えませんね。はつきり言つてここまで落ちてしまったかという感じです。

菊地 今、シーン的に今は「ジャズ・ザ・ニュー・チャプター」といつロバート・グラスパーだけではなくインド系のヴィージェイ・アイナーとかを含めてジャズが10年代になつて、気に活性化したような状況になつて。それまでニューヨーク、21世紀になつてからのニューヨークで、RIIとかいうのもあるのかもしれないですが、ニューヨークは本場で、毎日セッションしてて、そこにはヤバイミュージシャンがいるから、ジャズを知るためににはニューヨークいかないとダメだぜ」みたいな雰囲気はちょっとなくなつていた。例えば、ウイントン・マルサリス、ブランド・メルドーとか一人一人はすごいんですけど。サックスだとジョシュア・レッドマンとか。ちょっと前の90年代後半から00年代前半にやつてた人がスキルも才能もあるんだけど力



悪くいえばジャズに搾取されるような形で紹介されていた状況というのは、悪く言えば、ポピュラーミュージック界からしたら豊穣な20世紀の極点かもしれないくらい。20世紀のポピュラーミュージックは50年代も70年代も豊かですけれど64～65年の状況は日本人にも何人でもボサノヴァがあつてモダンジャズもまだあつてハード・バップみたいなものがあつて安定的な商業的な路線が決定し、R&Bやファンクの初期もあつて、そして何よりビートルズがいて、英米ブラジルじゃなく、それからワールドミュージックの時代が来てがいろんな国の音楽が聴かれるようになつて今の11年くらいになつてもやっぱり英米ブラジルな気がするんですね。なんで、ペルーとかならない、国力とかあるんでどうが。アルゼンチンでもいいわけじゃないですか。

菊地　シーンがミュージシャンだけでなく、一般人がざわつくまで至らなかつたのが、10年過ぎてから「今ジャズ」とか「ユニーク・チャプタ！」とか言い方は安定していないんですけどと言われ出して、一気に活性化した。

リスマに欠け、シーンがミュージシャンだけでなく、一般人がざわつくまで至らなかつたのが、10年過ぎてから「今ジャズ」とか「ユニーク・チャプタ！」とか言い方は安定していないんですけどと言われ出して、一気に活性化した。

菊地　ディエゴ・スキッシみたいなものもあるにはある。一時、アルゼンチン音響派、カバサッキなんかが00年あたり来ましたけれど、一般的にタワーレコードでレコード買う音楽好きの青年とかまでには、あまりいきわたらなかつた。今はアントニオ・ロウレイロの「ソーラ」とか新しい時代のブラジル音楽のクラシックスつて捉えられているようなんのつて、そこまで届き始めている感じがする。やつぱりブラジルつてすごいですね。「ソーラ」とか聞くと、音楽教育のレベルの高さを感じる。

濱瀬　アルゼンチンは一部で流行していますがね。

菊地　アルゼンチンは非常に大きくなっている。そういうことは何も知らない人も多い。そういうことは何も知らない人も多い。そういう人がうようよい。そういうことを知らせるのがラティーナの仕事かもしれないですが……我々が聴いていいと思うかは別として、市場が活性化してるという意味では、トリックスターという意味もありますけどグラスバーとかが出てきて……それまではジャジー・ヒップホップといつてヒップホップ側がジャズを真似するだけだったんですけど、あるいはジャズミュージシャンがヒップホップやR&B、ドランベースのように聴かせたいつていジャズと。もう一方はそういう風ではないものにきかせたいつていジャズと。昔三

大ドラマってあつたじゃないですか。エルヴィン、トニー、ブレイキー。いまだとマーク、ジュリアナ、クリス・デイヴ、ジャマイア・ワイリアムスみたいのがあつて。ジャズもまた状況的に活性化したかなという時に、同時にブラジルのタチアナ・ペーハだとか……。イギリスの65年の最初にブラジル音楽が

悪くいえばジャズに搾取されるような形で紹介されていた状況というのは、悪く言えば、ポピュラーミュージック界からしたら豊穣な20世紀の極点かもしれないくらい。20世紀のポピュラーミュージックは50年代も70年代も豊かですけれど64～65年の状況は日本人にも何人でもボサノヴァがあつてモダンジャズもまだあつてハード・バップみたいなものがあつて安定的な商業的な路線が決定し、R&Bやファンクの初期もあつて、そして何よりビートルズがいて、英米ブラジルじゃなく、それからワールドミュージックの時代が来てがいろんな国の音楽が聴かれるようになつて今の11年くらいになつてもやっぱり英米ブラジルな気がするんですね。なんで、ペルーとかならない、国力とかあるんでどうが。アルゼンチンでもいいわけじゃないですか。

● 1964年→2014年

濱瀬　ミナス・ジェライス州立大学に音楽課があつて。それが名門。高度な教育を受けた連中がアカデミック・コンテンポラリー・ミュージックではなくて、ポピュラー音楽の方に全力投球で能力をぶつけている。そこが大きく違う。全部をかけてますよね。それはすごいなと思いますね。

菊地　快楽的にiTunesなんかで音楽を買って聴きたいっていう人が歴史を知つていればいいという説ではないんですけど、リテラシーの一つとして、例えばハバナもラスベガス化してアメリカの資本がいっぱいあつたのが、一気になくなつたんだとかいう。それまでは蜜月でキューバの人達がアメリカにおける南米の音楽とジャズの融合は最初がキューバでその後ブラジルが続くまでにだいぶかかっていますがね。

濱瀬　アルゼンチンは非常に大きくなっている。そういうことは何も知らない人も多い。そういうことは何も知らない人も多い。そういう人がうようよい。そういうことを知らせるのがラティーナの仕事かもしれないですが……我々が聴いていいと思うかは別として、市場が活性化してるという意味では、トリックスターという意味もありますけどグラスバーとかが出てきて……それまではジャジー・ヒップホップといつてヒップホップ側がジャズを真似するだけだったんですけど、あるいはジャズミュージシャンがヒップホップやR&B、ドランベースのように聴かせたいつていジャズと。もう一方はそういう風ではないものにきかせたいつていジャズと。昔三

大ドラマってあつたじゃないですか。エルヴィン、トニー、ブレイキー。いまだとマーク、ジュリアナ、クリス・デイヴ、ジャマイア・ワイリアムスみたいのがあつて。ジャズもまた状況的に活性化したかなという時に、同時にブラジルのタチアナ・ペーハだとか……。イギリスの65年の最初にブラジル音楽が

変えるといわれています。彼女はイギリス人でビートメーカーもイギリス在住のベネズエラの人なんです。時代の画期となるときはどうしてイギリスとアメリカとブラジルなんだろう。他の国が入ることはない。パリ発の音楽が、時代の画期となるときに入るところがない。

濱瀬　60年代のボサノヴァは、ブラジルがそこまでエネルギーがあつたかな。

菊地　『ゲット・ジルベルト』は変わったアルバムですよね。魅力も嬉しい。

濱瀬　ブラジル音楽の隆盛の時代ですよ。アメリカでのボサノヴァのあり方とブラジルはあまりにも違う。アメリカン・ボサノヴァとしては隆盛を極めたんだけど、全くブラジルのものと違う。

菊地　あれは一種の珍盤、奇盤。前後関係みても。

濱瀬　ブラジルにおいては非常に大きくなっていますが、そこまで届き始めたしベースになったサンバとかサンバ・カンソンとかショーロも実態のあるもので存在していただけれど、アメリカには、その前にカルメン・ミランダが古い時代に消費されるけれど、ボサノヴァってそれに近い表層的な消費のされ方したあと。

菊地　64年と2014年の一番の違いは商業音楽の流通とかマーケットがとにかく革命的に変わつてしまつたのでYouTubeでなんでも聴ける訳じゃないですか。名前さえ知つていれば、品書きさえければ物は当たるという時代で、当時では考えられない未来になつちやつたわけで。音楽は相変わらず演奏され、作曲され歌われているにも関わらず、それがコンテンツとしては革命的なことが起こつていて。逆に言うとそれでもなおイギリスとアメリカとブラジルとなるというのは不思議な気はするんですよ。20世紀中盤ぐらいの流通のあり方だとしたら、いくらでも操作ができるんじゃないですか。搾取

濱瀬　アカデミックな場で、ポピュラー音楽としても優れた音楽をやつているのがすごい。ミナスなんかにいる学生、もしくは卒業した連中が新世代のミナス派を形成している訳ですけど。

菊地　僕不勉強で知らないんですけどミナスに音大みたいなものがあるんですか。

濱瀬　アカデミックな場で、ポピュラー音楽として優れた音楽をやつしているのがすごい。ミナスなんかにいる学生、もしくは卒業した連中が新世代のミナス派を形成している訳ですけど。

濱瀬　アカデミックな場で、ポピュラー音楽として優れた音楽をやつしているのがすごい。ミナスなんかにいる学生、もしくは卒業した連中が新世代のミナス派を形成している訳ですけど。



●濱瀬元彦

70年代からジャズ・ベーストとして活動、後にソロ活動に転じ6つのソロ・アルバムを出している。現在は「瀬戸元彦 E.L.F. Ensemble 菊地成孔」で音楽の新しい形を追求している。著作も多く、近著は『チャーリー・バーカーの技法 インプロヴィゼーションの構造分析』(岩波書店)。

もできるし、そういうことを隠蔽したりもできると思うんです。今だと、もうできないというか。作った人があげちゃつて何もできない。生ものがボンボン上がる感じじゃないですか。ある種バンドラの箱がひらいたといふか地獄の釜が開いたというか。ベルギーの人たちとか、ロシアの人のフリー・ジャズとか入ってくる。そういう混沌の時代にあっても、本当に音楽的に濃縮され、実現されているもの、クリエウティブはイギリスアメリカ、ブラジルにしか感じない。例外的にいき音楽家も沢山いるだけれどね。

**濱瀬** 知らないからだと思うんだけれどね、イギリス、アメリカにいいものがあるという実感は全くない。時々聴かせてもらうアメリカのものがあるんだけれど、全然いいと思わない。「グリズリー・ベア」とか「ダーティー・プロジェクトーズ」とか、クリストフ・シリリアなんかがアメリカの前衛ロックのようないものをいいつてるからといって聴かせてもらつたんですけど、全然よくない。言葉がいいのかな?やり方、方法はアメリカのポップスとは全然違うんだけれど、クリス

●菊地成孔

東京ジャズシーンのミュージシャン（サキソフォン／ヴォーカル）として活動／思想の軸足を以てジャズミュージックに置きながらも、ジャンル越境的な活動を展開。演奏と著述はもとより、ラジオ／テレビ番組でのナビゲーター、コラムニスト、選曲家、クラブDJ等々、様々な活動をこなし、そのどれもが高い評価を得ている。

トフのような、あらだけのものをやつていろ。人が言うものでもない。全く質から違うし、イギリスはどうなんですか。

「今ドラマ」と言われている。ドラムンベーブ・スなどかダブステップ、ヒップホップの打ち込みで出来ている人間には無理だろうときれど、ド・スペーデンという人がいるんすけれども、ジエームスとかのパックをやつて、リチャード・スティーヴンソンとかダブステップ、ヒップホップの打ち込みで出来てきているというのもありますし、そこらへんでもさわざしているのが昨年までの状況で。FKAトゥイッグスはYouTubeで聴き切れないくらい出てくる。今はプレイリストする前の映像から、最新のライブ映像まで上がってしまうくらい。山ほどあって聴ききれない。検索してみると紹介している英文を訳している人のサイトだけでもいくつもあるて読み切れない。世界中の音楽雑誌がエクストリームなものから大衆的なものまで皆が10点つけた。コンテンポラリーダンサーでもあるんだけど、音楽全体の感じとしてもアート。歌がすごく上手いんですよ。ビヨークがやろうとしてやり切れなかつたとをやつて、23才の女の子。トラックを作っているのも26才くらいの男の子で若い。コードに対する感じとかエレクトロニカしかやつたことがない。エレクトロニカの中から調声らしいのレア感がある。他のもの打ち込みの技術とかダンスとかは発達してるんですけど、すごく変わった音楽で。もう一度ボビュラー・ミュージックがアート化する可能性を丁寧に

出したといわれる人で。今年イギリスでデビューした。アメリカでは無理。ヨークもアイスランドじゃないですか。だからアメリカ人ではない。今年アメリカで一番売れたのが白人のオーストラリア人でなんですよね。北米人でもアフロアメリカンでもない。そういう転換期でボビュラーミュージックはわざわざきてる時。皮つばはメガ、ギガという見

んです。あとダニ・グルジエルとか。ちよつと日本でやるとパンパンになるとか、こういう状況でなかつたですよね。

CDで売れるんですか。YouTubeの世界では同じじやないです。再生回数が多ければ盤が売れて各家庭に届くということ別に音楽的にクオリティーが高ければ聴く人は評価する。全部が違っている意味なんだけど、今21世紀になつて、10数年経つてやつと21世紀が来た気がする。

その中でブラジル音楽も、もちろんブラジル音楽を好きな人には活況だった時代もあつたとは思うんですが、長い間ジルベルト以上が出ないという側面もあつた。それが、今、07年～09年あたりから誰が聴いててもすごいというものが吹き出してきた。

菊地 質的に急激に変わつますよね。

濱瀬 あれこそ、使いこなされているからいいんですけど、ニューウェーブというか、でうかい波がきた。

菊地 数が増えた。アンドレ・マーリが象徴的でそういう意味では一番可視化できる。でも、それと同調するタイプの人人がたくさん上がつてきた。

●リスナーの耳は肥えてきたのか？

菊地 歴史的リテラシーはないかもしれないんですけど、音楽的リテラシー、マーケットの耳は肥えた気はするんですよね。アカ・セカ・トリオなんかは昔は好事家だけのもので、いくら情報がYouTubeでとれる時代になつたとはいって、こんなに知られなかつたと思う

んです。あとダニ・グルジエルとか。ちよつと日本でやるとパンパンになるとか、こういう状況つてなかつたですよね。

模で売れるんですか。YouTubeの世界では同じじやないですか。再生回数が多ければ、CDが売れなくてでも注目されている訳で、盤が売れて各家庭に届くということ別に音楽的にクオリティーが高ければ聴く人は評価する。全部が違っている意味なんだけれど、今21世紀になつて、10数年経つてやつと21世紀が來た気がする。

その中でブラジル音楽も、もちろんブラジル音楽を好きな人には活況だった時代もあつたとは思うんですが、長い間ジルベルト以上が出ないという側面もあつた。それが、今、07年～09年あたりから誰が聴いてもすごいというものが吹き出してきた。

濱瀬 質的に急激に変わつてますよね。

菊地 あれこそ、使いこなされているからいいんですけど、ニューウェーブというか、でつい波がきた。

んです。あとダニ・グルジエルとか、ちよつと日本でやるとパンパンになるとか、こういう状況でなかつたですよね。

●リスナーの耳は肥えてきたのか?

模で売れるんですか。YouTubeの世界では同じじやないですか。再生回数が多ければ、CDが売れなくてでも注目されている訳で、盤が売れて各家庭に届くということ別に音楽的にクオリティーが高ければ聴く人は評価する。全部が違っている意味なんだけれど、今21世紀になつて、10数年経つてやつと21世紀が來た気がする。

その中でブラジル音楽も、もちろんブラジル音楽を好きな人には活況だった時代もあつたとは思うんですが、長い間ジルベルト以上が出ないという側面もあつた。それが、今、07年～09年あたりから誰が聴いてもすごいというのが吹き出してきた。

濱瀬 質的に急激に変わつてますよね。

菊地 あれこそ、使いこなされているからいいんですけど、ニューウェーブというか、でつい波がきた。

んです。あとダニ・グルジエルとか。ちよつと日本でやるとパンパンになるとか、こういう状況でなかつたですよね。

菊地 一人はブラジル人じゃないのも関係あるかもしれないですね。ヴァルダン・オブザビアンはアルメニアの出身です。（終）

はモニカとタチアナが図抜けていて、モニカは他にも何人かいて書いて7位くらいにいた。タチアナ・ペーハを挙げたのが2、3人しかいなくて意外だった。ブラジル音楽を聴く人からするとちょっと異質なのかな。

**濱瀬** モニカ・サウマーヴの最新作は聴きましたか？

**菊地** 聴きました。匹敵します。タチアナの作品がすば抜けていますね。モニカはとりわけ素晴らしい。オーラソドキシーと質の高さは得難い。

**菊地** 韶きに関してもリズムに関しても聴く人の耳も肥えた。昔は聴き素人みたいな人がほとんどで、そういう人が悪いとはいわないでけれど、歌謡曲しかきいたことがない人がいっぱいいて、細かいことやってもどうせわからないというのが全般にあつた。それは悪いことではなくて普通のことなんんですけど。ここんところみんな耳利き／目利きが聞きたくなってきた。

**濱瀬** この前の特集で今年のベストテンを選びというので20人くらい書いて、僕の中で

んです。あとダニ・グルジエルとか、ちよつと日本でやるとパンパンになるとか、こういう状況でなかつたですよね。